

令和3年度多忙化解消アクションプラン

放課後を有効に活用し、職場環境づくりに取り組んだ実践

安八町立名森小学校

1 目標

本校では、昨年度より「多忙化解消アクションプラン」の指定を受け、全教職員がタイムマネジメントを意識して勤務の適正化を図ってきた。今年度は加配教員の活用により、中・高学年担任の時間数の軽減を図るようにし、時間外勤務時間45時間未満を目指している。また、自らの働き方を見直すことでゆとりをもち、授業力を磨き、学級経営力を高めることで以下の目標の達成を目指した。

- ・暴力行為については0（ゼロ）を目標とする。
- ・教職員によるいじめの認知を0（ゼロ）としない。
- ・新規不登校児童0（ゼロ）とする。
- ・継続の不登校児童とのかかわりを深め、0（ゼロ）を目指す。
- ・家庭・地域・関係諸機関との連携をより強固にする。

2 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
		実施	学級	時間	実施	学級	時間	
1	22	理科	○	1	3	○	2	6
2		算数				○	2	10

3 実践の内容

(1) 加配教員や人材の具体的な活用

- ・高学年（5・6年）は1学級あたりの人数が多い（6年：40人、5年33人）ため、加配教員や常勤教員による支援体制を強化し、担任の時間数の軽減を図った。
- ・6年2組担任は、生徒指導主事を兼務している。指導教科数を減らすことで、教材研究や授業準備にかかる時間を軽減した。
- ・3年児童の中には、新しい教科や活動がいくつも始まるため戸惑いを感じる児童も少なくない。そのため、3年生では教員の専門性や得意を生かす教科指導となるよう人材の活用を行った。

	3年1組(30人)	4年2組(25人)	5年2組(33人)	6年2組(40人)
県の加配教員 ※	外国語1		算数少5、理科3	算数少5、理科3、英語2、児童支援5
育児短時間勤務	図工1.7		算数5	算数5、家庭1.6
再任用ハーフ	理科2.6			
フリー				書写1
町 教科指導員 支援員	1名	理科3、音楽1.7 1名(兼6年)		1名(兼4年)
空き時間の合計	5.3	4.7	8.0	12.6
持ち時間	22.7	24.3	21.0	16.4

※県の加配非常勤教員…働き方改革促進プロジェクト2名（理科）（算数）、小学校教科担任1名（外国語・英語）、少人数指導1名（算数）、児童生徒支援教員1名（抽出学級を記載）

(2) 「空き時間」の増加に伴う効果

空き時間の増加による効果について、高学年担任(計4名)にアンケートをとった結果である。

活用方法	授業準備（教材・教具の作成、プリント印刷等）…3名	
	提出物チェック（家庭学習の点検等）…4名	打合せ…2名
	保護者対応…1名	教材研究…1名
		(複数回答)

記述 ・児童への対応に時間を使うことができた。落ち着いて授業の振り返りをしたり、生徒指導にかかわる相談をしたりする時間ができ、自分の勉強になっている。
 ・空き時間には主に課題の見届けを行い、学習状況の把握に努めている。
 ・校務分掌にかかわる業務や提出文書の処理等を空き時間を活用して行うことができ、時間外勤務が減少した。(2名)

(3) スリム化のために (学校全体で取り組む、一人一人が意識する)

- ・職員研修で仕事の効率化や工夫を話し合ったり、「私の働き方改革」のアイデアを皆で共有したりして、教職員一人一人の意識を高めた。
- ・誰もが楽しく「できる・分かる」授業をすることが教師の務めである。各自がタイムマネジメントを意識し、笑顔で子どもに向き合うために以下のような工夫をした。

	実践内容とその具体	効果
①	放課後の諸会議の見直し → 職員会は2ヶ月に1回	月あたり2時間削減
②	Teams 回覧レポートの活用・共有 → 終礼は2週間に1回 印刷配付作業の軽減	月あたり2時間削減
③	I C Tの効果的な活用 → 拡大資料の作成を吟味	月あたり2時間程度削減
④	教室掲示の簡略化 → 必要な物を精選し、学習部から提案	4月の業務の軽減
⑤	空き時間の有効活用 (教材研究、教具の準備、校務分掌にかかわる文書作成、不登校傾向児童への個別の対応 (保護者との連携、家庭訪問、放課後登校で学習・生活支援) → 放課後の時間の活用へ	児童のために空き時間を有効に使う意識の浸透

4 評価結果

	高学年担任の平均空き時間数			教職員の月当たりの平均時間外勤務時間 (4月～11月)								
	5年生	6年生	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4～11月平均
R2	8.7	10.0	9.3	23時間49分	13時間27分	59時間43分	61時間50分	28時間54分	49時間50分	55時間41分	45時間38分	42時間22分
R3	8.0	11.8	9.9	54時間35分	42時間57分	45時間31分	31時間53分	10時間35分	47時間39分	47時間27分	41時間15分	39時間00分

※令和2年度の4・5月はコロナウイルス感染予防のため休校であったので、時間外勤務時間は少なくなっている。

- ・学校全体としては時間外勤務時間が減少している。
- ・4月は各学級担任の時間外勤務時間が多かった。年度当初の学年・学級事務に加えて校務分掌にかかわる業務があり、タイムマネジメントを意識した勤務が難しかったと考えられる。
- ・5月からは、45時間超の担任がいるものの、大幅な時間外勤務の超過は少ない。勤務時間を自身で管理する方法 (Excel シートに出退勤時刻を入力) の定着や、超過勤務の理由や改善策を考え見直しを図ることが有効に働いていると考える。学年や学年部で声をかけ合って毎日の働き方の改善に努めている。

5 成果と課題

- (1) 成果 ○加配教員や町の人材活用により、中・高学年担任の空き時間を確保できた。指導教科が限られたことで、教材研究や授業準備など本来の業務に当てることができている。
 ○生徒指導事案についてチームで対応した。解決に向かう指導と見届けを継続した。
 ○不登校傾向児童については、放課後登校や家庭訪問、教育相談 (S Cによる) などで支援することができた。
- (2) 課題 ・土・日曜日に休日出勤をする職員がいる。校務分掌や学級・学年事務など業務の適正化を引き続き検証、見直していく必要を感じている。
 ・不登校傾向児童については、家庭との連携を密にとり、支援をしている。家庭への支援も必要であるため、外部機関やS Cなどと連携して今後も継続した支援を心がけていく。